一般社団法人
日本
美術教育学会
会報
2023
07.31

代表理事 就任のご挨拶

代表理事
京都デザイン＆テクノロジー専門学校校長
細谷 僚一
HOSOTANI, Ryoichi

私が本学会の代表理事に就いたことについて多くの会員の皆様は驚いておられるのではないでしょうか。

その意外性の一つは、多くの会員の方々に私の存在はほとんど認知されていないと思われることです。前代表理事の大橋功先生のように幅広い人間関係のネットワークをもっているわけでもありませんし、昭和55年に31歳で本学会に入会した古参とはいえ、会誌編集や研究大会の会場設定、京都支部研究会の企画運営など、どちらかと言えば裏方の仕事を中心にやってきました。もう一つは、代表理事としての資格についてです。学会の代表理事や会長は大学の教授や名誉教授が着任されるのが通例です。専門学校に所属する者が就くことは、私の知る限りではありません。

本学会創設70周年記念京都大会において私は大会委員長及び基調提案をさせていただきました。実行委員をはじめ多くの会員の方々の協力の下、何とか無事に終えることができました。以前からこの大会を機会に私はすべてから身を引くつもりでいました。したがって、代表理事に就くという思いがけない展開に驚いているのは、誰よりも私自身です。

そうはいっても、一旦引き受けた以上、理事や委員の方々と力を合わせて本学会のビジョンを見据え、最善を尽くしたいと願っています。本学会は大きな過渡期に直面し、様々な課題が山積しているように感じています。

組織運営を抜本的に見直し改善すること、新たな課題・新たな時代に対応した研究態勢を構築すること、美術教育を歴史的に俯瞰し分野横断的な観点で見渡すこと、研究と実践の往還によって質の高い研究を進めること、各支部の研究活動を活性化し連携協力を密にして相乗的な交流を日常化すること、会誌の投稿数を増やすとともにその記事内容の充実を図ること、学会ホームページのリニューアルとその有効活用を積極的に進めること、教育現場が疲弊し研究活動の劣化が余儀なくされている厳しい現状を踏まえ、積極的に保幼小中高の教員や大学の学生・院生にも研究会参加を促し併せて会員数を増やすこと、他の美術教育学会や教育に関する学会、異分野の学会活動にも関心を向けながら、美術教育3学会の連携・統合へのステップを歩み出すことなど、思いつくだけでも数限りなくあります。

とりわけ、当事者意識をもった会員の円滑な世代交代は、喫緊の課題だと思います。学術研究団体である学会は研究者の自主的な集まりで研究者自身の運営によるものです。つまり、営利団体でもない学会組織運営担当者は理事も含めていわばボランティアです。教育現場の多忙化や精神的

○事務局　新関伸也
東海大学児童教育学部児童教育学科
e-mail: honbu@aesi.org
○編集部　藤田雅也
〒422-8021 静岡市駿河区小鹿2丁目2番1号
静岡県公立大学法人　静岡県立大学
短期大学部 こども学科（美術教育研究室）
e-mail: fujita@u-shizuoka-ken.ac.jp
tel&fax: 054-202-2687（研究室）
○編集部（会報）　水谷謙孝

な負担感も伴い「年会費を納めているからにはサービスを受けるのが当然」という誤った考え方が、近年定着してきているように感じられます。

そういった現状を打ち破るには、何よりもそれぞれの会員の知的探究心や教育者としての情熱を駆り立てるような魅力ある研究の場を創り上げていかなければなりません。美術教育が社会から葬られ「化石」のようになってしまわないために、美術教育担当者の潜在する研究への飢えと渇きに応え、暗闇で模索し苦闘する足元に光明を照らし実践者・研究者を呼び込む求心力と広く発信する力を兼ね備え、本学会をこれからの美術教育を牽引する拠点にしたいものです。

法人役員

役　員	氏　名	所　属
代表理事	細谷 僚一	京都デザイン＆テクノロジー専門学校
業務執行理事（事務局長）	新関 伸也	東海大学
業務執行理事（会計部長）	松岡 宏明	大阪総合保育大学
業務執行理事（編集部長）	藤田 雅也	静岡県立大学短期大学部
業務執行理事（研究部長）	清田 哲男	岡山大学
業務執行理事（事業部長）	大橋　功	和歌山信愛大学
理 事	鳥越 亜矢	中国短期大学
理 事	詫摩 昭人	和光大学
監 事	佐藤 賢司	大阪教育大学
監 事	青木 宏子	玩具工房サニープレイス

教え込まないことで学ばれていくもの —はじめてのはさみ２才児—

atelier le matin 主宰

浅羽 聡美 *ASABA, Satomi*

はじめに

私は、2012年から現在に至るまで、20数か所の保育所・幼稚園で子どもたちの造形表現活動（その時間を「アート」と呼ぶ園が多いため，以下「アート」活動と記す）とその後の保育者同士の振り返りを通した職員研修を行ってきた。2019年、本活動を長期間継続的に行うことで保育現場にどのような変化が見られたかを報告書にまとめている[1)]。

今回は、東京都大田区ぽけっとランド西蒲田保育園（以下、N園）の事例を報告する。N園では、2020年度から現在に至るまで月１～２回のペースで１～５歳の子どもたちの「アート」活動を行ってきたが、その中で２才児クラス（11名）のはさみを使った実践を取り上げる。「はみ出す力展 Vol.4-図工・美術の授業2022」に展示した映像をもとにまとめ直した。

１．はじめてのはさみ

2022年７月11日、他の遊びと行ったり来たりできるようにいつもの遊び道具や空間はできるだけそのままに、４台のテーブルの上に次の素材を置いた。

はさみ／白の薄い紙皿／白の紙コップ／顔料系水性ペン（ポスカ）／染料系水性ペン／水彩筆ペン／養生テープ／マスキングテープ／セロハンテープ

担任保育者によると、２才児クラスではさみを出すのは初めてとのことであった。事前に保育者とはさみの持ち方、使い方を指導せず、はじまりと終わりのタイミングを子どもたちに任せ、過剰に誘ったり、ほめることで行動を方向づけることを控え、危険な行為以外はできる限り止めずに一人一人の興味を尊重して見守ることを確認している。

子どもたちがテーブルに集まりはじめたのが９時25分、最後の子どもがテーブルを離れたのが10時45分であった。その間を撮影した80分の映像から、はさみを使う姿を中心に静止画をピックアップした（図１～15）。それらを示しながら、どのようなことが起きたかを説明していく。

テーブルに置かれた素材に気付いた子どもたちがバラバラとテーブルに集まりはじめる（図1）。保育者に「やっていい」と聞く子はいたが、どう使うのか、なにをつくるのかを聞くことはほとんどなく、全体として静かにはじまっていった。

はさみで切る以外の表現も選択できるようにペンやテープ類も置いた。ペンで描きはじめた子は２人、それ以外の９人がはさみを手にしていた。最初のうちは、切らずにはさみのキャップを外したり嵌めたり、紙コップにはさみを入れると重みでコップが倒れることに気付き、それを繰り返す子もいた。ペンから使いはじめた２人も数分後にははさみで切りはじめ、最終的に全員が切ったり、描いたりしていた。

図１

図２～４は、真っ先に切りはじめたＡ（２才９ヶ月）の姿を時系列に並べている。はさみの指穴にすべての指を入れて逆手で握り、紙皿の縁に斜めに切り込みを入れることを、皿を回しながら繰り返すことからはじまり（図２)、逆手のまま人差し指のみ指穴から出し、皿が1cmほどの小ささになるまで切り刻んでいる（図３)。しばらくすると通常の持ち方で切っていくようになるが（図４)、養生テープを切るときは、また逆手に戻っている（図５)。切るものにも合わせ、切りやすい持ち方を探り続けていることがわかる。

図２

図３

図４

図５

図６～９のＢ（２才７ヶ月）は、両手ではさみの刃を開いて紙皿の端に刃をかませ（図６)、その後、どのように刃を閉じるか、さまざまな方法を試行錯誤している。図７ではテーブルの上に皿を寝かせてから刃を閉じようとしている。図８ではハンドルを上から掴むようにして刃を閉じているが、それでは操作しづらいからか、図９では足の間に皿をはさんで固定し、指穴に両手の指を入れて切っている。

図６

図７

図８

図９

Ｃ（２才４ヶ月）は、最初のうちはさみは使わず、ペンで紙皿や紙コップに、さらには自分の腕にも描いている（図10)。その後、線描した皿、コップを保育者に持たせ、両手ではさみを握って切りはじめる（図11、12)。切りたい位置が手前に向くように保育者に指示し、何度も持たせ直させながら最終的に８個の皿、コップを切っている。切れ目を入れるだけでなく、刃先の向きを少しずつコントロールし、形を切り離せるようになっていく（図13)。

図10

図11

図12

図13

Ｄ（２才５ヶ月）は、紙コップを立たせ両手ではさみを握って切ろうとするが、コップが倒れてしまう（図14)。何度も置き直し、向きを変えながらコップの縁全体にぐるっと切れ目を入れる（図15)。途中、はさみに集中することに疲れてか、息抜きのようにペンで描いては切ることに戻っていた。

図14

図15

2. 事後の振り返り

その日の午後、午前中の時間を担任保育者３名と浅羽の４人で対話的に振り返った。そのときの発言を抜粋、要約し、箇条書きにして次に記す。

- 子どもたちは本活動以前に、年上の子たちがはさみを使う姿や絵本に出てくるはさみの描写を見て、はさみを知っており、興味を持っていた。
- 指を切りそうでハラハラしたが、ケガをする子がいなかった。はさみを慎重に使っていた。
- やってみてうまくいかないと、どうしたらいいか考えながら使っていた。片手ではさみ持つ→思うように力が入らない→両手で持つ→切れるが紙が動いてしまう→紙を大人に持ってもらう等。
- 今の自分の手先の器用度や握力に合わせて、切りやすい方法を見つけ出していた。
- 自分なりの答え、自分としての最善を見つけていく、その“濃い”経験が大切な学びなのではないか。

3．2才児のその後

事例に挙げた子どもたちは、現在（2023年6月）3才になっている。担任保育者によると、その後も持ち方を教えていないが、いつの間にか全員が通常の持ち方ではさみを使っているとのことであった。

N園と同様の環境設定で2018年に2才児クラスではさみを使いはじめ、現在5年が経過する都内O保育園の園長に、その後の様子を聞いた。O園では、それ以前は数人ずつ呼んで、まずは細い短冊状の紙を切る「1回切り」をさせ、次に保育者が予め描いておいた輪郭線に沿って「連続切り」をさせるといった指導がなされていたが、2018年の「アート」活動以降、2才児の保育室にはさみを常設するようになり、子どもたちがやりたいときに、やりたいように使える環境がつくられるようになった。すると以前に比べてはさみでケガをすることが減り、5才になると以前にはなかったような器用さではさみを使う姿が見られるようになっているとのことであった。

さらには、そうした子どもの持つ力を信じ、できるだけ口を出さずに子どもの姿を丁寧に観察し、子どもの中で働くものを想像していこうとする保育者の姿勢が、はさみに限らずモノの使い方や遊び方の指導、ケンカの仲裁をせずに見守っていこうとする保育につながっていったとのことであった。

おわりに

はさみのその後とともにO園園長から語られた卒園児Kの母親のエピソードを、本報告の最後に紹介したい。

母親は子どもが在園中、O園の見守る保育に不安を持っていたが、小学生になったKが他の子どもたちがなにかあるとすぐに「先生に言いつける」と言うことに対して、「自分で言えばいいのに」と家で話題にしている、そうしたKの姿を見て、今はO園の保育に感謝しているとのことであった。

先述したN園の振り返りで、担任保育者から「“濃い”経験」という言葉があった。教えられた通りに上手くできることを求められない時間が、子どもたちの中でなにを育んでいくのか、私たち大人は、目に見えるわかりやすい成果ではないものに想像力を働かせていく必要があるだろうと思う。

註

1）浅羽聡美,「幼児教育に美術的な視点を持ち込むことでなにが起きたのか」,『第68回読売教育賞最優秀者実践報告集』, 読売新聞社 https://kyoiku.yomiuri.co.jp/kAihonews/contents/post-319.php（2023,6,22 アクセス）

一般社団法人日本美術教育学会 2023年度（令和5年度） 第1回理事会報告

日　時：令和5年5月14日（日）11:00 ～ 12:30
場　所：京都デザイン＆テクノロジー専門学校
出席者：細谷僚一、新関伸也、松岡宏明、藤田雅也、鳥越亜矢、詫摩昭人、佐藤賢司、青木宏子　（敬称略、順不同）
欠席者：（委任状）大橋功、清田哲男
理事会が成立していることを確認した。

- 欠席理事2名から書面決議書が提出されていることが報告され、理事会の開催が成立することが報告された。
- 細谷代表理事より開会の挨拶がなされた。
- 議長は、細谷代表理事が務めることが確認された。
- 議事録は、藤田理事が担当することが確認された。
- 令和5(2023)年度 一般社団法人 日本美術教育学会 運営組織について確認された。

Ⅰ　審議事項

1．第1号議案：2022年度　事業報告

⑴　松岡理事より、『美術教育』307号の査読論文リストと査読結果、及び実践報告リストと結果について報告された。

査読論文は、5件の投稿があり、各3名の査読結果に基づき、査読等専門部会での審議を経て、1件が掲載された。また、実践報告は、2件の投稿があり、編集委員会の確認を経て、1件が掲載された。

⑵　松岡理事より、2022年度3学会連携分の「二重投稿」について、報告された。

3学会の編集部長の連携によって、2022年度の二重投稿検討論文には5件が挙げられた。該当論文の査読者の見解も踏まえて、3学会の編集部長が確認を行ったところ、そのうちの2件について二重投稿の疑義が指摘された。本学会には、2件のうちの1件が該当し、該当の投稿者に、3名の査読者の見解を含め、研究倫理に関する疑義について通知をした。その後、本人より、研究倫理に関する疑義を生じさせてしまったことへのお詫びの回答があり、今後は同様の事態にならないよう留意する旨の記載が確認された。

『美術教育』307号の巻末に掲載している「事務局だより」の「編集部より」において、上記に関する注意喚起を行った。また、次号の会報には、三学会統一の内容での注意喚起を掲載する予定であることが報告され、掲載する文言についても確認を行った。

⑶　藤田理事より、2023年度より、会費を6,000円から8,000円に値上げすることが確認された。

⑷　新関理事より、2022 年度に「美術教育オンライン連続セミナー」が全 6 回にわたって開催されたことが報告された。

2．第 2 号議案：2022 年度　決算報告及び監査報告

⑴　藤田理事より、2022 年度の決算報告がなされ、承認された。監査報告は、6 月初旬に実施されることが確認された。

3．第 3 号議案：2023 年度　事業計画

⑴　新関理事より、2023 年度学会役員（委員及び理事・監事）及び業務内容について提案され、承認された。

⑵　藤田理事より、第 72 回学術研究大会岐阜大会の日程及び内容について、二次案内の校正原稿を基に報告され、承認された。

⑶　藤田理事より、第 16 回美術教育実践奨励賞の候補者について 1 名の推薦があり、該当者の推薦理由及び履歴書等について報告がなされ、審査を進めていくことについて承認された。今後は、理事会が指名する選考委員によって審査が行われることが確認された。また、選考委員 3 名の選出は、委員総会にて審議することが確認された。

⑷　藤田理事より、第 73 回学術研究大会静岡大会の日程及び会場について提案され、承認された。日程は、2024（令和 6）年 8 月 17 日（土)･18 日（日）が予定されており、16 日に委員総会が開催される。会場は、静岡県立大学小鹿キャンパスを予定している。大会実行委員長は、鈴木秀幸静岡支部長。

⑸　松岡理事より、学術研究大会研究発表申し込み要領改訂について提案され、承認された。

⑹　新関理事より、諸規程の整理及び制定について提案され、承認された。今後は、各部長に各部の機能等について確認し、検討を進めていくことが確認された。

⑺　新関理事より、学会誌『美術教育』及び、会報のデザインを含めたリニューアルについて検討を進めていくことが提案され、承認された。

⑻　新関理事より、学会誌『美術教育』の発行時期の検討について提案された。美術科教育学会・大学美術教育学会・日本美術教育学会の学会誌発行日は、毎年 3 月末であるが、半年移行して、9 月末に発行することによって、本学会誌への投稿数の増加などが期待できるのではないかなどの意見が挙げられた。

4．第 4 号議案：2023 年度　収支予算

⑴　藤田理事より、2023 年度の予算 (案) が提案され、審議の結果、承認された。支出の部では、各支部の活動を支援するために研究集会費を大幅に増額することが検討され、承認された。

5．第 5 号議案：2023 年度　学会運営方針について

⑴　新関理事より、2022 年度第 3 回理事会（2023 年 1 月 28 日開催）で審議された、学会運営方針について提案され、承認された。会費値上げの折、法人に相応しい学会運営のため、学会 web サイトを活用してペーパーレスをすすめ、合理化、経費削減、外部業者アウトソーシングを推進することが確認された。

Ⅱ　報告事項

1．事務局

⑴　新関理事より、造形芸術教育協議会の令和 4 年度の活動内容及び、令和 5 年度の計画について報告された。

⑵　新関理事より、新入会員及び会員異動、退会。会費未納による大会扱いについて報告された。

一般社団法人日本美術教育学会 2023 年度（令和 5 年度）第 1 回委員会総会報告

日　時：2023 年 5 月 14 日（日）14:00 ～ 17:00
場　所：京都デザイン＆テクノロジー専門学校
出席者:細谷僚一、新関伸也、詫摩昭人、藤田雅也、森田ゆかり、松岡宏明、石川和代、中川泰、横山徹、鈴木秀幸、水谷誠孝、日野陽子、鳥越亜矢、福井一尊、佐藤賢司、青木宏子（敬称略、順不同）
欠席者；(委任状）大橋功、清田哲男、香月欣浩
委員総会が成立していることを確認した。

1. 代表理事挨拶

2. 議長選任；新関伸也先生が選出される。

審議事項

第 1 号議案　2022 年度　事業報告

⑴　2022 年度学会誌・会報関係について

・2022 年度投稿論文及び実践研究について、資料 1 ～ 4 に基づき松岡委員より以下の説明がなされ、審議の結果承認された。

3 学会連携による二重投稿の検討を行った結果、5 件の論文がその対象となった。二重投稿の疑義ありと判断したもののうち、1 編が本学会誌に投稿されたものであった。本来ならば当該論文執筆者に対し、3 学会共通の文書を通知するべきところであるが、それがまだ作成されていない。そのため今回は本学会学会誌編集委員会より投稿者に査読者によ

る見解を記した通知文書を送った。二重投稿を含む研究倫理についての注意喚起については学会誌307号「事務局だより」にも記しているが、次号よりデジタル配信となる会報では、３学会編集部長の連名による３学会共有の文書を掲載することとした。

⑵　会費値上げについて
藤田委員より、2023年度より会費値上げについて説明がなされ承認された。

⑶　美術教育連続セミナーについて
新関委員より 資料５に基づき説明がなされたほか、セミナー担当者から意見を求めるなどして、開催日時の検討や、テーマ設定の是非、質疑応答時のカメラオンなど、今年度に向けた改善点が示されたほか、研究部による原案を中心にして支部やブロックの活動や研究の発信の場として予算化された事業であることが確認された。

第２号議案　2022年度　決算報告及び監査報告
藤田委員より資料６に基づき説明がなされ協議した結果、摘要項目内容の不備や監査日程などついて確認し、承認された。

第３号議案　2023年度　事業計画
⑴　2023 年度　学会役員（委員及び理事・監査）及び業務について
新関委員より資料７、８に基づき説明がなされ、第７～８期の理事と役割について確認し、承認された。また、会員の異動等による地区ブロック委員の変更と京都支部代表委員の枠を３名から２名に変更することが認められたほか、現在異なっている委員と理事の任期が一致するように徐々に移行すること確認された。

⑵　第72回学術研究大会岐阜大会について
藤田委員より大会二次案内の原稿に基づき説明と進捗状況が報告された。その際、不備や変更する内容について確認した。

⑶　第16回美術教育実践奨励賞候補者推薦について
藤田委員より資料９～12に基づき説明がなされ、推薦が受理された。今後は選考委員会で推薦内容を精査する。選考委員長には水谷委員、選考委員には詫摩委員と日野委員が選出された。
受賞者が受賞後に退会しているケースがあることに触れ、受賞者のその後の発表機会の在り方を検討する時期に来ているという意見が出され、継続的に審議することになった。

⑷　第73回　学術研究大会静岡大会について
鈴木委員より資料13に基づき説明がなされた。
開催日：2024年８月16日（委員総会)、17日・18日
会　場：静岡県立大学　小鹿キャンパス
静岡大会実行委員長：鈴木秀幸（磐田市立竜洋中学校校長）
なお大会要項に実行委員会欄に記名されるのは学会正会員であることを確認した。

⑸　学術研究大会発表申し込み要領改訂について
松岡委員より資料14，15に基づき説明がなされた。学会HPにある発表概要フォーマットを使用すること、発表申し込みをする者は発表の日時指定はできないこと、大会プログラム編成段階に入ってからの発表日時変更の希望が出た場合も受け入れないことを改めて確認し、協議の結果、これらについては今年度から適用することとした。

⑹　諸規定整理・制定について
新関委員より、理事や部長を中心として今年度時間をかけて規定の整理・制定を行うと説明があり、継続的に審議することが承認された。

⑺　学会誌『美術教育』､「会報」デザイン･リニューアルについて
新関委員より、学会誌について概要・キーワードなど他学会と内容をそろえる方向と、会報のPDF化に伴うページ数増大等について説明がなされ、継続的に審議することが承認された。

⑻　学会誌『美術教育』発行時期の検討について
新関委員より、学会誌原稿締め切りを３月末、発行時期を９月にする提案と、将来構想として学会誌の電子化について説明がなされた。電子化されてもISBNは引き継がれる。学会誌の発行時期を遅らせることで、論文の二重投稿防止効果や投稿論文数の増加が見込める一方で、本学会誌の特徴でもある大会報告の掲載が開催年度の学会誌ではなくなることになる。学会誌の発行時期についてはワーキンググループを作り､継続的に審議することが承認された。

第４号議案　2023年度収支予算
藤田委員より資料16に基づき説明がなされた。審議の結果、ブロック委員選出の選挙をGoogleフォームなどを活用して経費を削減し、その分を研究集会費にまわし、支部活動や会員の研究・実践活動の支援に充てることになった。

第５号議案　学会運営方針について
細谷代表理事より、資料17に基づき説明がなされ、承認された。なお、運営方針は2022年度理事会で協議されたものである。

報告事項
⑴　事務局
本学会は2022年度の造形芸術教育協議会幹事学会であり、４名の委員（大橋・藤田・松岡・清田 ）が協議会に参加した。新関委員より2022年度の①

～③の活動報告がなされた。①共同事業の確認、②学会誌投稿論文執筆要項の確認、③註の記載を３学会から２名ずつのワーキンググループでの検討の提案。また、８団体による国への提言に向けた情報交換会の日程確認を行った。

⑵庶務部
石川委員より、会員異動報告がなされた。

⑶編集部
藤田委員より、別紙に基づき令和５年度の学会編集部査読等専門部会を担当する会員について報告がなされた。

⑷支部報告
各支部代表より以下の報告がなされた。関東支部では、会員の定年等による高齢化が進んでいる。静岡支部では年３回の研究会を実施し支部会報を作成している。近いうちに静岡大会のテーマ設定を行う。愛知支部では７回目の岐阜大会実行委員会を実施し、支部会員同士の交流を深めている。滋賀支部では支部長の異動に伴い、大橋功委員を支部長とする。京都支部では昨年度に豊岡市にある平田オリザ氏が学長を務める芸術文化専門職大学の視察を行った。岡山支部では瀬戸内大会後の支部活動を検討するためのフォームを作り支部活動を決めていく予定。鳥取・島根支部では、会員同士の交流がなかなか進まないが、鳥取県立美術館が2025年度に開館することを楽しみにしている。

⑸その他
今年度はブロック委員選出の選挙開催年度に当たる。次回委員総会で代表理事が指名する３名で選挙管理委員会を立ち上げる。学会入会より１年以上経過した学会員を対象に、選挙人名簿を作成する。例年12月に投票用紙とともに選挙人名簿を発送していたが、経費削減と投票率向上を目的に、Googleフォームなどの活用を検討する。

【編集部よりお知らせ】
2023年度より**編集部の連絡先及び投稿先**が下記に変更になります。

藤田　雅也
静岡県立大学
短期大学部 こども学科（美術教育研究室）
〒422-8021 静岡市駿河区小鹿２丁目２番１号
E-mail：fujita@u-shizuoka-ken.ac.jp

「二重投稿」などについての注意

日本美術教育学会、大学美術教育学会、美術科教育学会の３学会は、長らく、同年度内の投稿論文について連携し、二重投稿などの研究倫理違反を未然に防ぎ、投稿者にとっての不利益が生じないように配慮していることは周知のとおりです。しかしながら、誠に遺憾なことに、2022年度の論文投稿において、また、二重投稿の疑義が発生し、対処しなければならない事態が発生しました。

二重投稿を行わないことは、投稿者の研究倫理遵守事項です。仮に、同じ内容を含む投稿論文が複数学会誌に掲載された場合、不利益を被るのは投稿者自身であり、たとえ掲載判断をしたとしても、それは学会の落ち度ではありません。昇任や採用における資格審査等において二重投稿が発覚し、研究倫理違反に該当すると認められた場合は、内外で何らかの対処がなされ、研究者としての立場が問われることになります。

同じ文章や内容（一部を含む）を、複数の学会誌等に投稿した場合、その時点で二重投稿になる可能性があります。また、投稿した論文が公刊される前に、それが採択されることを前提とした論文を別の学会等に投稿してはいけません。採択、不採択は関係ありません。さらに、自ら執筆し、以前に公刊された論文等であっても、それを生かす場合は、必ず引用の手続きを踏まなければなりません。

今回、３学会において、査読者を含め多くの学会員の、本来必要のない労が生み出され、多大なる時間が浪費されてしまうことにもなりました。美術教育界全体の信用醸成のためにも、今後一切の疑義が生じないよう留意ください。

なお、本学会「投稿用紙」には、「投稿物は、捏造、改ざん、著作権侵害、二重投稿、重複投稿、サラミ出版、盗用・剽窃（自己を含む）など、研究倫理に一切抵触しません」のチェック欄があります。虚偽のないように、投稿者が責任をもってチェックをしてください。

令和４年度　一般社団法人　日本美術教育学会　決算

令和５年５月14日

【収入の部】

項目		予算	決算	増減	摘要
1	前年度繰越金	536,786	536,786	0	
2	本年度年会費	2,388,000	2,274,000	▲ 114,000	会費6,000円× 379名（会員415名 回収率91.33%）
3	過年度年会費	420,000	96,000	▲ 324,000	会費 6,000 円× 16 名
4	研究論文掲載料	100,000	20,000	▲ 80,000	20,000 円× 1 名
5	雑収入	5,000	24,975	19,975	学会誌バックナンバー、70 周年記念誌
6	協賛会社　広告費	200,000	370,000	170,000	広告料（13 社）
合計		3,649,786	3,321,761	▲ 328,025	

【支出の部】

項目		予算	決算	増減	摘要
1	事業費	2,440,000	1,880,036	▲ 559,964	
①	学会誌刊行費	1,340,000	1,036,950	▲ 303,050	
i	学会誌編集費	40,000	24,760	▲ 15,240	査読等送料、消耗品
ii	学会誌編集委員会旅費	100,000	101,390	1,390	学会誌　査読・編集委員会旅費
iii	学会誌印刷費	1,200,000	910,800	▲ 289,200	『美術教育』307 号× 450 部
②	会報発行費	130,000	99,000	▲ 31,000	会報 151 号、152 号　各 500 部
③	会員名簿印刷費	0	0	0	
④	学術研究大会補助費	300,000	300,000	0	第 71 回瀬戸内大会
⑤	研究集会費	50,000	124,950	74,950	連続セミナー資料代等
⑥	HP 管理運営費	50,000	46,624	▲ 3,376	
⑦	通信費	300,000	112,512	▲ 187,488	会誌・会報・大会案内、等の送料
⑧	造形芸術教育協議会費	30,000	0	▲ 30,000	幹事、会場費、その他
⑨	奨励賞積立金	150,000	150,000	0	実践教育奨励賞等の積立
⑩	教関学会連絡協議会費	10,000	10,000	0	会費、その他
⑪	事業旅費	60,000	0	▲ 60,000	各協議会旅費
⑫	法人関係諸経費	20,000	0	▲ 20,000	法人登記にかかる諸経費
2	会議費	160,000	54,824	▲ 105,176	
①	委員会費	50,000	20,224	▲ 29,776	会場費
②	事務局会費	10,000	0	▲ 10,000	会場費、レジュメ印刷代、その他
③	会議旅費	100,000	34,600	▲ 65,400	理事・委員旅費（全額支給）
3	事務局費	630,000	497,534	▲ 132,466	
①	部会運営費	30,000	30,000	0	庶務部・編集部・会計部運営
②	通信費	20,000	15,519	▲ 4,481	電話手数料、事務連絡郵送料、その他
③	事務消耗費	190,000	27,837	▲ 162,163	事務消耗品、封筒など
④	事務委託費	250,000	250,000	0	名簿管理・発送関係委託料
⑤	アカウント使用料	80,000	141,209	61,209	DropBOX、ZOOM、Googledrive 契約料
⑥	雑費	60,000	32,969	▲ 27,031	その他
4	予備費	419,786	0	▲ 419,786	
合　計		3,649,786	2,432,394	▲ 1,217,392	

収入の部－支出の部＝ 889,367　次年度へ繰り越し

上記の通り報告致します。　　会計部長　藤田 雅也

上記の通り相違ないことを認めます。　　会計監査　藤本 陽三

青木 宏子

令和５年度　一般社団法人　日本美術教育学会　予算

令和５年５月 14 日

【収入の部】

項目		前年度決算	予算	増減	摘要
1	前年度繰越金	536,786	889,367	352,581	
2	本年度年会費	2,274,000	3,104,000	830,000	会費 8,000 円× 388 名
3	過年度年会費	96,000	270,000	174,000	会費 6,000 円× 45 件（1 年未納者 21 名、2 年未納者 12 名）
4	研究論文掲載料	20,000	100,000	80,000	
5	雑収入	24,975	5,000	▲ 19,975	
6	協賛費	370,000	230,000	▲ 140,000	
合計		3,321,761	4,598,367	1,276,606	

【支出の部】

項目		前年度決算	予算	増減	摘要
1	事業費	1,880,036	2,650,000	769,964	
①	学会誌刊行費	1,036,950	1,390,000	353,050	
i	学会誌編集費	24,760	40,000	15,240	査読等送料、消耗品
ii	学会誌編集委員会旅費	101,390	150,000	48,610	学会誌　査読・編集委員会 旅費
iii	学会誌印刷費	910,800	1,200,000	289,200	『美術教育』308 号× 450 部
②	会報発行費	99,000	60,000	▲ 39,000	会報 153 号、154 号（Web 版）
③	会員名簿印刷費	0	0	0	令和 3 年度に印刷（今後は Web 化を検討）
④	学術研究大会援助費	300,000	300,000	0	第 72 回岐阜大会
⑤	研究集会費	124,950	300,000	175,050	支部活動支援費、委員によるオンライン連続セミナーの資料代 など
⑥	HP 管理運営費	46,624	50,000	3,376	
⑦	通信費	112,512	150,000	37,488	会誌・会報・大会案内などの送料
⑧	造形芸術教育協議会費	0	0	0	
⑨	奨励賞積立金	150,000	150,000	0	実践教育奨励賞などの積立
⑩	教関学会連絡協議会費	10,000	10,000	0	会費、その他
⑪	事業旅費	0	100,000	100,000	各種協議会旅費
⑫	法人関係諸経費	0	20,000	20,000	法人登記にかかる諸経費
⑬	選挙関係	0	120,000	120,000	封筒代、印刷費、送料、受取金払い など
2	会議費	54,824	360,000	305,176	
①	理事・委員会費	20,224	50,000	29,776	会場費 など
②	事務局会費	0	10,000	10,000	会場費、資料印刷費 など
③	会議旅費	34,600	300,000	265,400	理事・委員旅費など
3	事務局費	497,534	650,000	152,466	
①	部会運営費	30,000	40,000	10,000	編集部・会計部・研究部・事業部の運営
②	通信費	15,519	20,000	4,481	電話手数料、事務連絡郵送料、その他
③	事務消耗品費	27,837	130,000	102,163	事務消耗品、封筒新規作成費 など
④	事務委託費	250,000	250,000	0	名簿管理・発送関係委託料
⑤	アカウント使用料	141,209	150,000	8,791	DropBOX、Zoom、Googledrive 契約料
⑥	雑費	32,969	60,000	27,031	その他
4	予備費	889,367	938,367	49,000	次年度繰越金
合　計		3,321,761	4,598,367	1,276,606	

日本美術教育学会学術研究大会研究発表申し込み要領

この度、日本美術教育学会学術研究大会における研究発表の申し込み要領を改定いたしました。

第73回静岡大会からこの要領で受け付けますので、発表を検討されている方は、よくお読みください。

1　発表内容

美術教育に関する内容（実践報告・研究）

2　発表方法

- 口頭発表を基本とします。
- A4用紙1頁分の発表概要を大会要項に収録します。その他の資料は発表者が必要に応じて用意してください。100部程度必要です。
- 発表に使用できる機材は、プロジェクターまたは大型ディスプレイです。ただし、使用する場合、あらかじめ申告してください。
- 上記機器に接続可能なパソコンや再生機器は各自でご用意ください。その場合、接続ケーブルも発表者がご用意ください。
- セキュリティの関係上、持ち込みの記憶媒体を使用するためのPCを会場側で準備することはありません。

3　発表時間

発表時間25分、質疑応答10分の合計35分（時間厳守。時間を超えると打ち切ります）

なお、発表日程、会場については大会事務局で決めさせていただきます。

4　学会誌への収録

年度末に発刊する学会誌『美術教育』に発表内容を収録します。発表者による自己執筆になります。発表後に編集部から執筆依頼があります。

5　発表資格

発表者は以下の条件を**全て満たしている**必要があります。

- 本学会員であること（**共同発表の場合も全員が本学会員であること**）。
- 会費の滞納がないこと（申込みまでに発表年度までの会費の納入を済ませてください）。
- **本学会に1年以上在籍していること（年会費が納入された時点を入会日とし、発表申し込み時に入会1年が経過していること）**。学生（院生を含む）の場合、担当教員の推薦が必要（推薦状を提出のこと）。
- 年度末に発刊する学会誌『美術教育』の大会記録頁に報告原稿を執筆する意志があること。

6　発表申し込み内容と方法

以下の情報を記載の上、E-mail及びE-mail添付にて申し込みください。

- 氏名、所属（大学の場合は学部まで、短期大学は学科まで記入。）及び肩書き、会員ID（以上、共同発表者がいる場合は全員分）
- 電話番号（携帯）（共同発表者がいても代表者のみで構いません）
- 研究発表の題目（**二次案内作成段階で変更は可能ですが、その後は学会誌への報告を含めて、変更することはできません**）
- 発表概要（**提出後に変更することはできません。**なお、HPで配信しますので、著作権、肖像権など研究倫理上の問題が生じないようにご留意ください）

※発表日時を希望することはできません。

7　発表概要

別紙「発表概要フォーマット.docx」（学会HPからダウンロード可）を使って作成してください。**下記フォーマット内容を変更した原稿は受け付けません。**

【フォーマット】

- ファイル形式：Microsoft Word
- 用紙サイズ：A 4版用紙　縦置き、横書き1ページ分
- 余白：上65mm、左右22mm、下22mm。上の余白部分にタイトル、所属、職名を記す。
- 体裁：文字の大きさは10ポイント。47文字×40行まで（写真や図表などがある場合はその部分も含む。**行間などを変更しないようにしてください**）。

※印刷：カラー印刷なので写真や図版もカラー原稿で提出ください。モノクロをご希望の場合はお知らせください。文字に色をつけて強調するなども可能です。

※写真や図表：文中に貼り付けず、**別途ファイルで送ってください**。鮮明なもので解像度は400dpi程度のもの。写真はjpg形式でファイル名をつけてください。写真や図表がどこに入るのか、及びその説明（キャプション）を、文中に示してください。

8　発表申し込み〆切

4月30日　23:59

※〆切時間を過ぎての申し込みは、どのような事情があっても受付けません。

9　発表申し込み先

大会事務局　office-××@aesj.org（「××」には大会開催地名が入ります）

なお、本要領は2024年4月1日より適用されます。

第 72 回日本美術教育学会 岐阜大会のご案内

大会テーマ

生きる源流としてのアート
～ひと・もの・ことがつながる美術教育～

大会会場

中部学院大学 各務原キャンパス
〒 504-0837　各務原市那加甥田町 30-1

- 名鉄本線「岐阜駅」から名鉄各務原線「各務原市役所前駅」まで 11 分、下車後徒歩 10 分。
- JR 東海道本線「岐阜駅」から JR 高山線「那加駅」まで 7 分、下車後徒歩 15 分。

日程と内容について

＜8 月 10 日＞

- **昼：理事会、委員会**
- **夕刻**：エクスカーション（ぎふ長良川鵜飼見学）

＜8 月 11 日　大会 1 日目＞

- **午前：開会行事、基調提案、共同討議**
- **昼：総会**
- **午後：研究発表、記念講演**
- **夕方：交流会（中部学院大学内、学生会館）**
  大会 1 日目終了後、気楽なおしゃべりで 1 日を振り返りましょう。
- **夜：懇親会**
  大会会場より徒歩で 10 分程度離れた各務原市産業文化センター 8 階（展望レストランぶるうすかい）にて行います。

＜8 月 12 日　大会 2 日目＞

- **午前：鑑賞 AR（拡張現実）体験鑑賞ワークショップ**
  岐阜県美術館で実施している拡張現実で、収蔵作品を鑑賞する体験をしていただくワークショップです。
- **昼：第 5 回「研究論文・実践報告の書き方初級セミナー」**
  講師：松岡宏明（編集部・大阪総合保育大学児童保育学部 教授）
  研究論文や実践報告の書き方初級セミナーを企画しています。どうぞ奮ってご参加ください。
- **午後：研究発表、次期開催地挨拶（静岡大会）**

基調提案

堀 祥子（名古屋女子大学文学部 准教授）

共同討議

人が生きる源流はどこからくるのか、および、アートとの関係性をパネリストの実践や研究内容を通して考えます。フロアの皆さんと一緒に「ひと・もの・こと」がつながることで見えてくるものは何か、そこに美術教育がどう関わっていくのかについて討議したいと思います。

＜コーディネーター＞
堀 祥子（名古屋女子大学文学部 准教授）
＜パネリスト＞
今村 光章（岐阜大学教育学部 教授）
金山 智子（情報科学芸術大学院大学 教授）
浅尾 知子（元津島市立高台寺小学校校長、現飛島村教育委員会就学支援 CO）

記念講演

「芸術するこころの源流」
齋藤 亜矢 氏（京都芸術大学文明哲学研究所 教授 ）
人が生きる源流にどうして表現があるのか、人は生まれてから、どのように表現を獲得していくのか、といった齋藤先生のこれまでの研究や現在の研究を基にしたお話をうかがう予定です。

会員異動

（会報 No.152 号以降・敬称略）

【新入会員】

山中　慶子	長崎女子短期大学幼児教育学科 /（兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 教科教育実践学専攻芸術系教育連合講座）
藤丸　一郎	大阪青山大学子ども教育学部 特任教授
八嶋　孝幸	弘前大学教育学部附属小学校 教諭
三浦　高之	お茶の水女子大学附属高等学校 教諭
大泉　義一	早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授
石田絵里香	関西大学大学院文学研究科総合人文学専攻 教育学専修
田村知栄子	名古屋経営短期大学 准教授
田和　　篤	京都アートスクール 実技講師
森高　光広	東京未来大学通信課程 特任教授
荒西　伸吾	聖カタリナ大学短期大学部 助教

【所属変更】

松浦　　藍	岡山大学学術研究院教育学域 助教
春日美由紀	うるとらまりん（Art & Communication Lab）主宰
髙橋　憲人	弘前大学 教育学部 助教
示野　充彦	埼玉県立芸術総合高等学校 美術科
岩崎　真季	大阪市立金塚小学校 教頭
西薗　　静	京都教育大学教育学部美術科 講師

【退会】

丸谷のぞみ／吉垣隆雄／村井拓人／村上幸一／大嶋彰／江口邦裕／村上尚徳／岩崎充浩／赤羽尚美／森繁樹／田代琴美／髙橋敏之／劒持早苗／文屋正道／廣川政和

異動があった場合は、なるべく早く本部（E-mail: honbu@aesj.org）までお知らせください。